

どうしてこんなことに…

高橋伴明監督作品

夜明けまで バス停で

板谷由夏

大西礼芳 三浦貴大 松浦祐也 ルビーモレノ 片岡礼子 土居志央梨
あめくみちこ 幕雄仁 鈴木秀人 長尾和宏 福地展成 小倉早貴
柄本佑 下元史朗 筒井真理子 根岸季衣 柄本明

脚本 梶原阿貴 音楽 吉川清之

主題歌 Title「CRY」(ワーナーミュージック・ジャパン)

製作人 見崎史 長尾和宏 小林未生和 高橋恵子 エグゼクティブプロデューサー 鈴木真央
プロデューサー 角田隆 小林良二 見留多佳城 神崎良 佐久間敬則
撮影監督 編集 小川真司 照明 丸山和志 録音 植田中 美術 丸尾知信 装飾 藤田徹 衣裳 青木茂
ヘアメイク 結城春香 VFX 立石勝 アクセサリー指導 ななし水城 制作担当 櫻井陽 助監督 塚田優也
配給 渋谷プロダクション 制作会社 G・カンパニー ©2022 夜明けまでバス停で 製作委員会
2022/JAPAN/ビスタ/5.1ch/DCP/91min

コロナ禍における社会的孤立を描く問題作

<https://yoakemademoie.com/>



もしかしたら明日、
誰しもが置かれるかもしれない
「社会的孤立」を描く。

私は、ホームレスとは生きる意欲を失った人が

なっていくものと思っていたが、

この主人公の場合は全くそうではなかった。

不幸なコロナ禍もあったがしかし自分の「誇り」ゆえに

ホームレスとなったのだ。

「自己責任」でなく「相互扶助」が大切だと改めて感じた。

田原総一郎(ジャーナリスト)

2020年冬。幡ヶ谷のバス停で寝泊まりする、あるひとりのホームレスの女性が、突然襲われてしまう悲劇があった。非正規雇用や自身の就労年齢により、いつ自分に仕事なくなるか分からない中、コロナ禍によって更に不安定な就労状況。そして自らが置かれている危機的状況にもかかわらず、人間の「自尊心」がゆえに生じてしまう、助けを求められない人々。本作は、もしかしたら明日、誰しもが置かれるかもしれない「社会的孤立」を描く。『痛くない死に方』の名匠・高橋伴明監督の、「今、これを世の中に発信しなければ」という想いに、日本映画が誇るスタッフとキャストが集結。バス停で寝泊まりするホームレスに転落してしまう主人公・三知子役に『欲望』(2005)以来の映画主演となる板谷由夏、その他、大西礼芳、三浦貴大、松浦祐也、ルビーモレノ、片岡礼子、土居志央梨、あめくみちこ、柄本佑、筒井真理子、下元史朗、根岸季衣、柄本明と、実力派俳優が勢ぞろいした。主題歌には、Netflix「BASTARD!!-暗黒の破壊神-」エンディングテーマでも話題の、Tielleの新作「CRY」が決定した。

Story 北林三知子(板谷由夏)は昼間はアトリエで自作のアクセサリーを売りながら、夜は焼き鳥屋で住み込みのパートとして働いていたが、突然のコロナ禍により仕事と家を同時に失ってしまう。新しい仕事もなく、ファミレスや漫画喫茶も閉まっている。途方に暮れる三知子の目の前には、街灯が照らし暗闇の中そだけ少し明るくポツリと佇むバス停があった…。一方、三知子が働いていた焼き鳥屋の店長である寺島千晴(大西礼芳)は、コロナ禍で現実と従業員の板挟みになり、恋人でもあるマネージャー・大河原聡(三浦貴大)のパワハラ・セクハラにも頭を悩まされていた。誰にも弱みを見せられず、ホームレスに転落した三知子は、公園で古参のホームレス・バクダン(柄本明)と出会い…。これは、ある日誰にも起こりうる、日本の社会の危惧すべき現状を描いた物語である。

10月8日(土)~ロードショー

前売券1,500円劇場窓口にて販売中(当日一般1,800円の処) 舞台挨拶、イベント情報、上映時間は劇場HP、SNSをご確認ください。

新宿駅東南口階段下 甲州街道沿ドコモショップ左入

新宿 K's cinema

03 (3352) 2471 www.ks-cinema.com

各回入替・全席指定席

池袋西口・ロサ会館

池袋シネマ・ロサ

03-3986-3713

www.cinamarosa.net